

信州農業を革新する技術開発の推進

【農政部（農業技術課、園芸畜産課）、産業労働部（ものづくり振興課）、林務部（信州の木活用課）】

（平成 26 年 11 月 27 日 第 10 回本部会議 農業技術課長 北原 富裕）

農業所得向上への取組

I 販売額の増加

- ① 単価UP 高品質化、ブランド化
高付加価値化（6次産業化等）⇒【6次産業化 taskforce】
- ② 単収UP 生産性向上、新品種の開発・普及
- ③ 面積UP 農地集積・集約化、多品目

II 経費（コスト）の削減

- ① 生産コストの削減 肥料、農薬、燃料等の資材費
- ② 販売流通コストの削減 多様な販路の確保

大幅な削減には革新的な技術開発が必要
しかし 農業分野の関係者のアイデアのみでは限界感

多分野連携による新たな技術開発が必要

今回の taskforce で開発

農業ニーズに応える研究開発に向けた情報交換とシーズとのマッチング

平成 26 年度
より着手

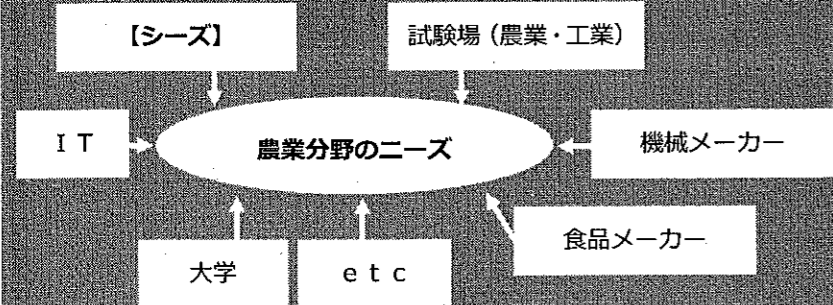
農業分野におけるニーズの収集

ニーズを持つ農業関係者
農業者、企業の経営体、JA、実需者
流通業者、消費者などから広く募集

ニーズの公表

ニーズとシーズのマッチング (異業種間・部局間で連携)

様々なニーズに対して
シーズを有する者が集まり
研究開発に向け情報交換



テーマごとに

研究会を開催

平成 26 年 12 月
第 1 回開催

平成 27 年度以降
継続して開催

シーズの実用性評価

平成 28 年以降：ニーズとシーズをマッチングし順次革新的技術開発研究に着手

【研究開発の広がりにより参加部局を拡大】

- ・果樹棚栽培における営農型太陽光発電
- ・農作業軽労化のための機械、補助器具 など

達成目標：革新的農業技術の開発着手 H30: 9 件 革新的技術・機械の開発 H30: 3 件

課題解決に必要なメンバーでコンソーシアムを形成 ~異業種連携による試験研究の加速化~

平成 27 年度
より着手

★平成 27 年度より緊急性の高い 3 課題に着手★

① レタス収穫機の開発

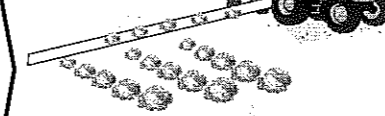
【現在】

調整・搬出 → 箱出荷



搬出作業の労働負荷、収穫時の人手不足

調整不要
搬出の機械化



拾い上げ機・搬出機の開発

労働負荷の軽減、雇用労働力の削減、コスト削減、所得向上

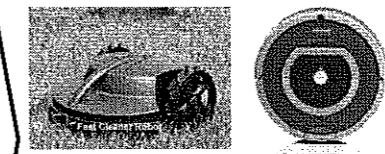
平成 30 年度まで
軽労化・労働力削減可能な機械開発
業務用流通ルート確立
生産コスト 20%削減

② 水田畦畔除草管理機の開発

【現在】



除草作業の労働負荷、死亡事故の発生



試作機の開発と現地実証

規模拡大で農家所得の向上、耕作放棄地の増加防止、事故防止

平成 30 年度まで
高齢者・女性でも作業可能な
新たな除草機を開発
重労働から解放、事故防止

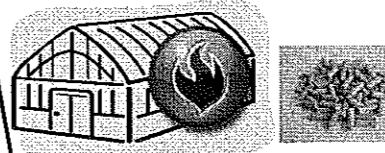
③ 農業用バイオマス炉の開発

【現在】

化石燃料に依存



燃油価格の高騰による経営の圧迫



熱量・コスト解析
燃料の供給・流通体制構築

燃油コストの削減、地域資源活用、エネルギー自給率向上
資源循環による農村コミュニティの維持発展

平成 29 年度まで
長野県農業に適したバイオマス炉の
設計、開発
燃油コスト 15%削減